

尾張自然観察会通信

2024年6号

発行6月1日



ヤナギハิเมジヨオン (キク科)

この時期によく目にする北米原産のヒメジョオンによく似ていますが、葉が細くて鋸歯が目立たないなど、何となく雰囲気異なります。

Wikiでは北米原産のヘラハิเมジヨオンの別名とされていますが、日本帰化植物写真図鑑ではヒメジョオンとヘラハิเมジヨオンの自然雑種と記されています。

気づかないだけかもしれませんが、ほとんど見かけたことはありません。写真は小牧市民四季の森で撮影したものです。

====目次====

| | |
|-----------------|---|
| 当面の行事案内 | 1 |
| 行事報告 | 2 |
| 定例観察会報告 | 3 |
| 善師野自然観察会 (4月) | 3 |
| 尾張北部自然観察会 (5月) | 4 |
| 森林公園自然観察会 (5月) | 5 |
| 木曾川下流自然観察会 (5月) | 6 |
| 海上の森自然観察会 (5月) | 7 |
| 日進岩藤川自然観察会 (5月) | 8 |
| 知っておきたい尾張の自然・風景 | |
| 犬山のヒトツバタゴ自生地 | 9 |

当面の行事案内

■定例観察会

| 日付 | 場所 | 催行時間 | 集合場所 | 担当 | 連絡先 |
|----------|-------|-------------|----------------|----|---------------|
| 6/1 (土) | 明德公園 | 9:30~12:00 | 明德公園西駐車場入り口表示板 | 辻 | 080-3073-6827 |
| 6/1 (土) | 尾張北部 | 9:30~14:00 | さら・さくら第2駐車場 | 木村 | 080-3642-8304 |
| 6/2 (日) | 森林公園 | 9:30~12:00 | 森林公園案内所 | 出口 | 080-4309-2701 |
| 6/9 (日) | 木曾川下流 | 9:30~12:00 | 138タワー玄関前 | 齋竹 | 0587-37-7616 |
| 6/15 (土) | 海上の森 | 10:00~15:00 | 海上の森駐車場 | 内海 | 090-9912-3686 |
| 6/16 (日) | 日進岩藤川 | 9:30~12:30 | 日進市総合運動公園の駐車場 | 鬼頭 | 0561-38-2792 |
| 6/22 (土) | 善師野 | 9:30~15:00 | 善師野駅前 (農道駐車不可) | 平井 | 052-504-5223 |
| 7/6 (土) | 明德公園 | 9:30~12:00 | 明德公園西駐車場入り口表示板 | 辻 | 080-3073-6827 |
| 7/6 (土) | 尾張北部 | 9:30~14:00 | さら・さくら第2駐車場 | 木村 | 080-3642-8304 |
| 7/7 (日) | 森林公園 | 9:30~12:00 | 森林公園案内所 | 出口 | 080-4309-2701 |

通信に掲載したい事項やメールアドレス変更などがありましたら、下記担当者までお知らせください。

<編集担当> 齋竹善行

住所: 〒482-0007 岩倉市大山寺元町12-3 メールアドレス: BZA03620@nifty.ne.jp

行事報告

■あいちの自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会行事）

尾張支部担当の「あいちの自然観察会」を5月5日(日・祝)に森林公園で開催し、27名の参加がありました。この観察会のようすは定例観察報告の森林公園自然観察会(p5)をご覧ください。

■小牧市バラ・アジサイまつり/「四季の森探検ツアー」

○日時:2024/5/18(土)

○場所:小牧市総合公園 市民四季の森

小牧市の「バラ・アジサイまつり」で行われるイベントの一つ「四季の森探検ツアー」に指導員派遣の依頼を受け、尾張自然観察会の会員4名(齋竹、木村、青山、霜)で対応した。

午前1回・午後2回、延べ51名の参加で、各回1時間ほどかけて四季の森を巡り、昆虫採集や植物観察等を通して自然と触れ合った。当日の天気は晴で最高気温は名古屋で30℃。暑さのせいか、まつりの人出はやや少なめだったようで、探検ツアー参加者も昨年に比べて少なかったが、子供は幼児～小学校低学年くらいで17名おり、昨年参加した子供がまた行きたいと言って来てくれた親子が3組いたり、午前と午後に2回も参加してくれた親子がいたり、自然が好きな親子に出会えて嬉しかった。昆虫採集では大人も子供と一緒に、配布した捕虫網を振って楽しんだ。

各回の探検ツアーは、集合場所でのコース説明と諸注意(歩く時は捕虫網を立てて持つ、ハチに捕虫網を振ってはいけない、熱中症に気をつける等)から始まり、バラ園でバラの鑑賞(色や匂いで好みのバラをみつける)、昆虫の林エリアで昆虫採集と採集した昆虫を虫カゴに入れてみんなで観察(ヒメウラナミジャンメ、ツチイナゴ、ヒシバツタの仲間、キリギリス幼体、ツマグロオオヨコバイ、ウンカの仲間、ヨツボシケシキスイ、ナナホシテントウ、ガの仲間、ハエの仲間、モリチャバネゴキブリ、シリアゲムシ、ショウリョウバッタ幼体、キイロホソガガンボ他)、満開のユリノキの観察(何かに似ている花の形・名前の由来・匂い)、樹木に集まる生き物の観察(コナラ:樹液にチョウやオオスズメバチが集まる、エゴノキ:エゴノツルクビオトシブミがつくるオトシブミがある)、橋の下のウシガエルの観察、小鳥の森の散策路で見られる草本や樹木の観察(ドクダミ:匂い・花のつくり、ブタナ:葉を触るとザラザラするのは毛がたくさんあるから、タブノキ:小牧市の木、アジサイ:見ごろはまだ先)を行いながら、森を巡り集合場所まで戻って終了とした。

(報告:霜)



定例観察会報告

第338回 From 善師野 2024. 4. 27 (土) くもり 指導員5名 一般6名

4月の善師野は最ものが命あふれる季節です。足元から樹上まで至るところ花だらけ。歩いているだけで昆虫も次々に現れます。だから全然先に進めません。今まで見たことのないタマムシに出会いました。アオマダラタマムシです。一般にタマムシと言えば大きくてビカビカのヤマトタマムシですが、このタマムシは光る星が体に付いているのです。体長は2cmほどしかないのですが、いつまでも見ていたくなるほど、とにかくきれい種でした。善師野にはまだまだ素敵な出会いがありそうです。

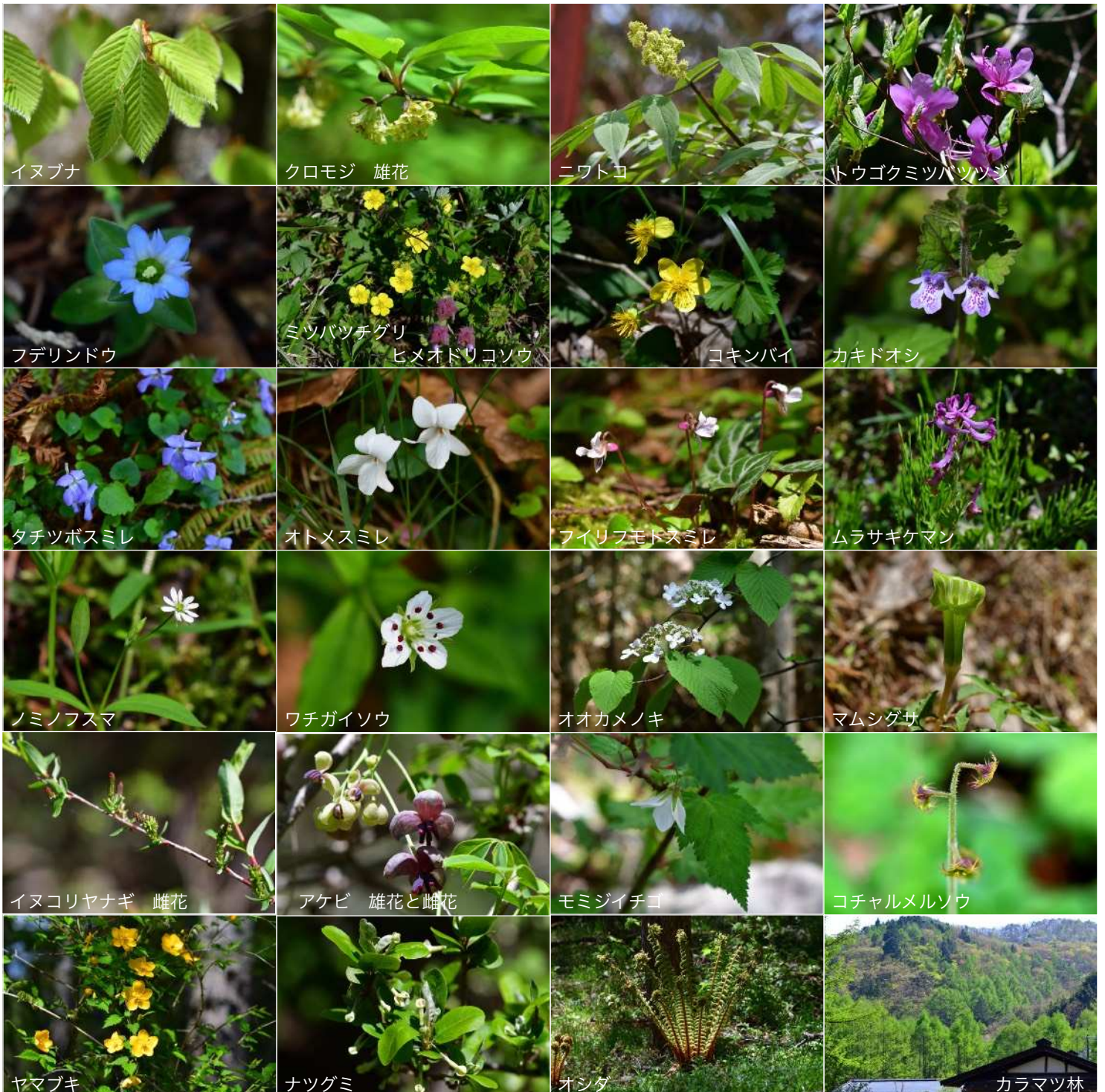
(平井)



参加者 指導員(木村、太田、角田、山田、後藤、後藤)6名 一般10名 計16名
 木曾と飯田を結ぶ大平街道へ新緑を求めて向かいました。途中の標高1358mの大平峠では柔らかな毛が目立つイヌブナの若葉、クロモジ、キブシ、ニワトコの花やミズメ、コミネカエデ、アサノハカエデ等の葉を観察しました。江戸時代からの宿場遺構であり現在は無住の大平宿では、標高が高いためまだ春の野草があちこちで咲き、昔の人々の暮らしを偲ばせる桜や果樹も花盛りでした。集落の周囲の林はカラマツが芽吹き明るい緑色に包まれています。2度目の春と穏やかなひとときを楽しみ帰路につきました。(後藤)

[その他観察したもの]

ナズナ、タネツケバナ、ニョイスミレ、ヤマネコノメソウ、ワラビ、マンネンスギ、ブナ、モミ、シラカバ、ダケカンバ、コウヤマキ、カスミザクラ、コバノフユイチゴ 等



森林公園観察会

レポート No364

日時:2024年5月5日(日) 09:30~12:00 天候:晴れ 気温:最低 13.5℃、最高 27.5℃

参加者:指導員17名・出口、霜、高橋(征)、高橋(か)、小林、青山、浅井、石川、内海、太田、岡島、

木村(絢)、木村(眞)、齋竹、櫻井、辻、山田 一般10名、計27名

自然界に緑という色はいったい何通りあるのだろうか？ 無限とも思える様々な緑の中にツブラジイの金色のオバナがひとときわ輝いているように見える。その独特の香りも時々漂ってくる。岐阜・金華山の名前の由来となったと聞いて納得がいく。

今回の観察会は「あいちの自然観察会」を兼ねて行われたこともあり、一般参加者、指導員ともにいつもより多く賑やかな観察会となった。出発に先立って、木村絢子さんから参加者に「ヒメコウゾ」と「ノイバラの仲間」の素敵なカードがプレゼントされた。いつもながらその精緻さは素晴らしい。それにしても、この時期の自然の移り変わりは早い。先月、みずみずしい花序を出していたモミジバフウは、すっかり受粉もおわり若い果実をつけていた。この時期にしか見られないソウジユの花と羽状複葉も観察できた。この葉はすぐ落ちてしまい、細長い葉のように見えるものは、じつは葉柄とのこと。いつも必ず一つは「へえ！」がある。各種どんぐりの木がある「こどもの森」では、暗い木陰にキンランやホクリクムヨウランが見られ、湿地ではハルリンドウにかわってイシモチソウが白い可憐な花をつけはじめた。昆虫ではシロシタホタルガの幼虫(サワフタギ、クロミノニシゴリにつく)とホタルガの幼虫(ヒサカキにつく)をすぐ隣同士で見ることができた。ホタルガの幼虫の分泌物には毒があり、触るとかぶれるので要注意とのこと。また、昼頃にはハキリバチが短く切り取った葉をせっせと巣に運んでいる姿も見られた。

観察会終了後、参加者どうし弁当を広げての昼食会となった。日頃、名前しか存じ上げていなかった方々と直接お会いして話すことができたのも有意義であった。 (記・小林龍彦)

木の花:トナリ、ハエジ、ソウジユ、カキ、ツブラジイ、ウツロシ、ケウキ、ツバナ、コナシ、ズイ、ヒトツバ、ヤマキ

草の花:ジシバリ、オジシバリ、ブナ、コナ、ハコナ、コナホト、コナ、ヒメ、オナ、オナ、オナ、オナ、オナ、オナ

鳥:ウツロシ、ヒメ、オナ、ムササビ、スズメ、ツバメ、フリスカ、キリン、ホクリクムヨウラン、カズビシヤク、ハルリンドウ、イシモチソウ

昆虫:アオジ、アゲハ、キリギリス、ムササビ、クマノ、ハキリバチ、シロシタホタルガ(幼虫)、ホタルガ(幼虫)、コナ、ムササビ、ホクリクムヨウラン

鳥:ウツロシ(さえざり)、ヒメ、オナ



モミジバフウ(果実)



ソウジユ(葉)



シロシタホタルガ(幼虫)



ホクリクムヨウラン



ホタルガ(幼虫)



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年5月12日(日) 9:30~12:00 (曇/小雨)

参加者 一般: 4名

指導員: 太田、安田、渡辺、齋竹

テーマ 外来種を観察してみよう

五月晴とはなりませんでしたが、「目に青葉」の季節で、クスノキの花のさわやかな香りが漂う中を歩きました。

テーマは「外来種」ですが、数日前に堤防の草刈りが行われ、ここに多く生えるヒサウチソウの姿は見られませんでした。(おそらく来月には伸びて花をつけているでしょう。)それでも公園などではオオキンケイギク、オオカワヂシャ、オオフサモといった特定外来植物をはじめ多くの外来種が確認されました。

外来種ではありませんが、集合場所近くでヒメヨツバムグラを観察しました。アカネ科の小さな植物で目立ちません。よく似たホソバヨツバムグラは花が3裂で、本種は4裂なので見分けられます。「ヨツバ」の名のように4枚の葉が輪生しているように見えますが、葉は2枚で対生し、他の2枚は托葉ということです。

川原ではセンダンの花の構造をじっくり見ました。その近くに準絶滅危惧種のミソコウジュが数株、花をつけていました。今までここでは見ていない植物ですが、上流から種が流されてきて発芽したものでしょうか。

先月までたくさん花をつけていたミヤマウグイスカグラは赤い実となっていました。何かその数は多くありませんでした。

風があり時折小雨が降る天気で昆虫は多くは飛びませんでしたが、ちょっと変わった形のカバイロトガリメイガやモモスズメをじっくり観察できました。

また、ここでよく出会う知人が、間もなく巣立ちしそうな雛がいるコゲラの巣に案内してくれました。

先月見たオオタカの巣の近くで姿も声も確認できませんでした。無事に営巣が続いているとのことでした。(報告: 齋竹)

<その他観察できたもの>

花: (外来種) ブタナ、ヒメブタナ、ハルジオン、ヒメジョオン、ウラジロチチコグサ、イヌコモチナデシコ、シロバナマンテマ、キキョウソウ、ヤセウツボ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、ツボミオオバコ、ヘラオオバコ、コマツヨイグサ、オッタチカタバミ、(在来種) ニホンタンポポ、コウゾリナ、チチコグサ、ノミノツツリ、ヒナギキョウ、オヘビイチゴ、エビヅル

鳥: ツバメ、トビ、キジバト、ダイサギ、ヒヨドリ、スズメ、メジロ、カワラヒワ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ウグイス(声)、オオヨシキリ(声)、キジ(声)、キビタキ(声)

虫: モンシロチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、コムスジ、シオカラトンボ、クロツヤクシコメツキ、オオスズメバチ、



(川原で咲いていたミソコウジュの花を観察)



ヒメヨツバムグラの葉は2枚?














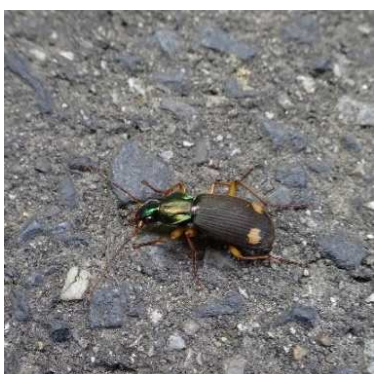
ここでは初めてのミソコウジュ



姿が面白いカバイロトガリメイガ



ヒナが顔を出したコゲラの巣

| | | |
|---|---|---|
|  |  |  |
| コックバネウツギ スイカズラ科 | タツナミソウ シソ科 | シライトソウ シュロソウ科 |
|  |  |  |
| ヤマトカギバ カギバガ科 | ヒゲナガハナノミ ナガハナノミ科 | ヤマトシリアゲ シリアゲムシ科 |
|  |  |  |
| エゴノキ エゴノキ科 | ウツギ アジサイ科 | ジャケツイバラ マメ科 |
|  |  |  |
| キベリトガリメイガ メイガ科 | オオホシカメムシ オオホシカメムシ科 | アトボシアオゴミムシ オサムシ科 |

多くの昆虫・草花、たくさん見ることができました。この時期にしては気温が高く、物見山は中止、ジャケツイバラまで行きました。(内海)



東の方、猿投山が霞んで見えました。雑木林からは鳥の声の聞きなしでトッキョキョカキョク、キョカキョク、というホトトギスの声が聞こえ、夏の到来を実感。朝方の雨が止み運動公園内を一周しました。気温が高くなるにつれバッタの幼虫も顔を見せいろいろな生きものが増えてくる頃です。太陽が顔を出せばもっと種類が増えてきます。(鬼頭)



サツキツツジ

大きな花を咲かせたヒラドツツジの花が終わり、サツキツツジが盛りを迎えました。ヤマツツジの仲間もほぼ終わっています。



アオカミキリ
モドキ

ハナカミキリに似てカミキリ

りに比べ大顎は目立たず細くて柔らかい感じがします。花粉などを食べています。幼虫は朽木を食べて育ちます。不用意に刺激すると毒成分を分泌し、皮膚に火傷に似た症状を引き起こすようです。



ギンバネヒメシャク

開張(翅の横幅)20 ㍉ほど。幼虫はタデ科の葉を食べます。後翅の縁に黒い点線のような模様があり、前翅との境目付近に目のように見える黒点があります。



←キマエホソバ

全長 20 ㍉。小型のコケガで羽根は黄色で縁取られています。幼虫は地衣類食す。



バッタの幼虫

左：イボバッタ 右：ショウリョウバッタ。刈り込んだ草地に踏み込むとぴょんぴょん跳ぶのが分かりました。



オオツノカメムシ

体の左右に張り出す立派な角を持ち、脚は黄色です。捕まえたらかメムシ特有の臭いにおいを発散させました。ミズキやケンポナシから吸汁するとありました。



ルリチュウレンジ幼虫

体長 20 ㍉、終齢幼虫のようです。ツツジの枝先の柔らかい新葉を食べます。卵は葉の縁に沿うように産みます。成虫はメタリックな藍色で、毒針を持たない葉蜂の仲間です。





ヒトツバタゴの花

ヒトツバタゴはモクセイ科の樹木で、近い種のタゴ（トネリコの別名）が複葉であるのに対し、単葉であることから「一ツ葉タゴ」と称されたことが和名の由来とされています。別名としてナンジャモンジャと呼ばれることがありますが、この名は他の樹木のことを指すこともあり、その由来には諸説あるようです。

ヒトツバタゴは、シデコブシやマメナシなどと同じく、東海丘陵要素とされていますが、その分布は東海地方だけでなく、何故か長崎県の対馬で自生が確認されています。最近では街路樹や公園などに植栽されたものを見かけることもありますが、自生は少なく、国のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

犬山市南部の本宮山と入鹿池の間にある池野地区にはヒトツバタゴが集団で自生しており、1923年（大正12年）に国の天然記念物に指定されています。（国指定のヒトツバタゴ自生地は、犬山のほか岐阜県の瑞浪、恵那、中津川と長崎県の対馬にもあります。）ここの自生地は、面積が1843㎡で、人が踏み付けられないよう周囲を柵で囲い、その中に成木6本、幼木11本が生育しているということです。大きなものは樹高約15m、古いものは樹齢250年とも言われています。



（花の時期のヒトツバタゴ自生地）

街路樹などとして植えられたヒトツバタゴは4月下旬頃から白い花を咲かせますが、ここの自生地のものは花の時期がやや遅く、ゴールデンウィーク後半の頃に満開となり、新聞などで雪を被ったような風景としてよく紹介されています。

尾張自然観察会では、かつて犬山市から委託を受け、ここで自然観察会を開催したことがあります。現在は、定例観察会の善師野自然観察会で3月にこの辺りを観察コースとして回っています。（齋竹）

街路樹などとして植えられたヒトツバタゴは4月下旬頃から



（ヒトツバタゴ自生地周辺地図）



（ヒトツバタゴ自生地の説明看板）